

湘南藤沢学会 「研究助成基金」 成果報告書  
2018年度 環境デザイン・フィールドワークショップ  
(成長年の交通問題を探るーバンコク編)

1. 活動日程・場所

2018年8月3日～8月6日 バンコク、タイ

2. 活動の目的

急成長を遂げる都市、バンコクの交通インフラを体験することによって問題点を発見し、解決策を考えるのが当ワークショップの目的である。

バンコクは、今後の発展が非常に期待される発展途上国である。しかし、発展の裏では、交通渋滞や汚染、貧富の差など急激な経済発展を遂げる国に見られる問題点が山積みである。このワークショップではこの中でも特に交通問題に注目し、バンコクのスカイトレインや、エアポートリンクなど様々な交通インフラを目で見て、体験することによって問題点を発見する。日本の整ったインフラを当たり前のように体験している私たちが、発展途中の国のインフラを体験することにより、その違いからバンコクのインフラの問題点に気づき解決策を考えるのが目的である。

3. 内容

まず、バンコクの交通機関を体験する前に、事前課題として行っていたバンコクの交通機関のマッピング分析をしたものの内容を共有し、バンコクのインフラの問題点に対する仮説立てた。その後、4日間に渡ってスカイトレインや水上バスなど様々なバンコクの交通機関を二つのグループに別れて体験した。そして、最終的に、4日間を通じて感じたことを共有し、バンコクに在住する教授にもお話を伺いながら仮説との照合を行い、解決策を考えた。

4. 考察

このフィールドワークによって、私はバンコクの交通渋滞の問題点は主に二つあると考えた。一つ目は、バンコクの主要な交通機関であるスカイトレインには環状線がないことである。スカイトレインは Siam 駅というバンコクの中心に位置する都市から放射線状に伸びているにもかかわらず、その端と端を繋ぐ環状線がない。これにより、ラッシュの時間にはこの駅は多くの人で混乱していた。

二つ目のバンコクの交通渋滞の問題点は、環状線がないなどのハード面の問題だけではなく、ソフトな面の問題もあると考えた。バンコクの様々な交通インフラを体験し感

じたことは、とにかく交通ルールが浸透していないことである。割り込みをしたり、信号無視をしたりなど、交通整備が整っていないことは渋滞の原因の一つであり、今後のバンコクの発展にも大きく影響するだろう。しかし、バンコクには未だにスラムが存在するように「貧困」という大きな問題も残されており、誰もが教育を受けられていない。

これより、バンコクの交通問題を解決するためにはハード面とソフト面の両方からのアプローチが必要であると考えた。ハード面では、スカイトレインに環状線を作り、Siam駅に匹敵するような大きな都市を作るなどして、一極集中を防ぐ仕組みを作ること。そして、ソフト面では貧困の連鎖から抜け出すための「教育」を全ての人を受け、交通マナーを守り、タイという国全体が発達できるようにすることが必要だと考えた。



(Mahachai marketの電車)



(Chong Nonsi駅のバスターミナル)

## 5. 今後の展望

発展途上国の交通インフラの問題を解決するためには、ハード面とソフト面の両方からのアプローチが大切であるとわかった。そのため、インフラと発展の関係をさらにリサーチすると同時に、ソフト面のアプローチとして、オオニシ研究会で現在行われている「Energy gift mini」というタイのハン島という無電化地域にタイのバンコクの学生が教育と電気を届けるプロジェクトなどを積極的に今後も行っていきたい。

## 6. 謝辞

本活動において、オオニシタクヤ教授やタイの現地の教授のサポート、そして、湘南藤沢学会の研究助成基金からの資金面での援助を受けました。ここに厚く感謝の意を示したいと思います。